

## 経営協議会学外委員からの意見に対する本学の対応

整理番号	名 称	開催日時	経営協議会学外委員からの意見	対応年度	意見に対する本学の対応
1	令和4年度第5回経営協議会	令和5年2月7日	地域の課題にどうやって大学があわせて解決していくかというところで、白糠町の取組は非常にユニークで良いと思う。脱炭素については、北海道全体また世界的なテーマであるのもっと発信をした方が良いと思う。	令和4年度	<p>脱炭素については、省庁等から採択された事業を中心に、大学ホームページで活動実績を報告している。また、地域におけるセミナー等で情報発信をしている。今後は、室蘭工業大学広報室と連携し、むろこーほー（学生広報スタッフ）を活用したPR活動を計画することとしたい。</p> <p>令和4年度の主な実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境省（令和4年度 既存のインフラを活用した水素供給低コスト化に向けたモデル構築・実証事業）</li> <li>・NEDO FS（水素社会構築技術開発事業／地域水素利活用技術開発（水素製造・利活用ポテンシャル調査））</li> <li>・NEDO（グリーンイノベーション基金）</li> <li>・ザ・シンポジウムみなとin室蘭（9月）やG7プレイベント@洞爺湖（2月）、ゼロカーボンいぶりセミナー@苫小牧（3月）など数百人規模のイベントでPR</li> </ul>
2	令和5年度第6回経営協議会	令和6年2月14日	室蘭工業大学の協定状況を客観的に見て、大学側から働きかけるケースと、企業からのケースもあると思って拝見していた。社会情勢でよく伺うのが、企業も人材確保に苦労しているということであり、企業としても学生あるいは研究室に研究者を送り出すとか、共同研究する中で解決しようとか、もう一歩進んで、例えば協定を結んだ企業から外部資金を獲得して、研究室運営につなげるような、もう少し進んだ具体的な取り組みがあると良い。	令和6年度	<p>組織対組織の連携協定を締結している企業から共同研究費を受け入れているほか、共同での競争的研究費の獲得や共同研究員として社員を研究室に受け入れるなどの連携実績がある。</p> <p>また、定期的に連携の状況や今後の取組みに関して協議する場を設け、双方の担当者だけではなく経営者層も参加することにより、組織対組織の包括連携を基礎とした共同研究によるイノベーション創出と人材（本学学生と連携先社会人）育成の推進を目指した取り組みを行っている。</p>